

現代短歌分類辭典

第百十七卷

津 端 亨 編纂

津 端 亨 編纂

現代短歌分類辞典

第一一七卷

日本財団支援

笹川良一記念文庫

財団法人日本科学協会

現代短歌分類辭典

117

昭和六十年三月十日発行

定價二、三〇〇円

著者発行
兼印刷者

津 端 亨

東京都台東区鳥越一―十一―八

〒111

発行所 現代短歌分類辭典刊行所

代表 津 端 亨

振替 東京 三一九三一―四番
電話 〇三(八五二) 九八六九番

目

次

(第一七卷)

	歌数	頁数
うたひーたのしむ	一	一
うたひーたまひーき	二	一
うたひーたまひーし	二	一
うたひーたまひーぬ	一	一
うたひーたまへ	一	一
うたひーたまへり	一	二
うたひーたまへる	二	二
うたひーたらーむ	一	二
うたひーたる	一	二
うたひーつ	一	三
うたひーつかれーて	一	三
うたひーつかれーて	一	四
うたひーつきーこーし	二	四
うたひーつきーて	一	四

	歌数	頁数
うたひーつぐ	三	四
うたひーつくしーて	二	五
うたひーつたへーし	一	五
うたひーつつ	三	五
うたひーつづくる	四	五
うたひーつづけーて	一	八
うたひーつづけーむ	一	九
うたひーつづける	二	九
うたひーつれ	二	九
うたひーて	五	一
うたひーてーき	一	一
うたひーてーし	一	一
うたひーてーは	一	一
うたびと	四	一

うたびとおくら
 うたびとごころ
 うたびとーさちを
 うたびと千家鉄磨
 うたひーとばせーば
 うたびとー家持
 うたびとら
 うたひーとよもし
 うたひーながら
 うたひーなげきーき
 うたひーなしーて
 うたひーにーし
 うたひーなーば
 うたひーぬ
 うたひーのこしーし
 うたひーはじめーぬ
 うたひーはじめる

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

二 四 二 五 二 五 二 五 二 六 二 六 二 六 二 六 二 六 二 六

うたひーはなてーり
 うたひーはばかりぬ
 うたひーはやしーて
 うたひーはやす
 うたひびと
 うたひーふかさーな
 うたひーふけりーて
 うたひーほうくる
 うたひーまうぜーや
 うたひまくる
 うたひーほけーたり
 うたひーほけーたる
 うたひーほけーつつ
 うたひーまくれーる
 うたひーましーけむ
 うたひーましーけり
 うたひーまじりーて

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元 元

うたひーませ
 うたひーまつりーき
 うたひーまつれーば
 うたひーまひーき
 うたひーまひ
 うたひーまひーけむ
 うたひーまふ
 歌ひめ
 うたひめら
 うたひーもーこーずーや
 うたひーやまーず
 うたひやめ
 うたひーゆかーる
 うたひーゆく
 うたひーゆけーり
 うたひーゆけーる
 うたひーわすれーし

一 一 二 七 一 一 一 一 一 一 二 二 一 一 一 一 一

三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

うたひーわらふ
 うたひーゐーし
 うたひーゐる
 うたひーをさめーて
 うたひーをどる
 うたひーをはりーぬ
 うたひーをはれーば
 うたひーをり
 うたひーをりーつつ
 うたひーをる
 うたひーをれーば
 訴ふ
 うたふ(唄)(終止形)
 うたふ(唄)(連体形)
 ㊟うたふ
 うたふーか
 うたふーが

一 二 四 二 一 一 一 一 一 三 二 三 一 二 二 二 五

三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三

うたふーかな
うたふー喫奈

歌袋

うたふーごとき
うたふーごとくに
うたふーと
うたふーて
うたふーだろ
うたふーぞ
うたふーな
うたふーなす
うたふーなべ
うたふーならーむ
うたふーならーむぞ
うたふーなり
うたふーなりーけり
うたふーに

一五 一一 一二 一 二 五 一 一 一 一 一 一 一 一 一 三 六

六 充 充 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七

うたふーにーか

歌船

うたふーのみ
うたふーは
うたふーべき
うたふーべく
うたふーべし
うたふーまで
歌碑
うたふーも
うたふーも (副助詞)
うたふーらく
うたふーらく
うたふーらむ
うたふーらん
うたふる (訴)
うたふるーごとく

一一 一一 一 八 二 一 一 一 一 一 四 六 一 一 五 一

七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 七 八

うたふーを

うたふーをーも

うたへ（命令形）

うたへ（訴）（名詞）

歌屏風

うたへーくる

うたへーし

うたへーたき

うたへーつ

うたへーつつ

うたへーと

うたへーど

うたへーども

うたへーぬ

うたへーば

うたへーまうさーむ

うたへーます

一五

一

二〇

二

一

一

二

一

一

一

三

七

六

一

三

一

一

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

八

うたへーむ

うたへよ

うたへーり

うたへーる

うたへーるーごととき

うたへーるーごとく

うたへーるーごとし

うたへーるーさへーや

うたへーるーなりーけり

うたへーれーば

うたほがひーせーむ

うたぼけ

歌反古

歌仏たち

歌巻

うたーまく

歌枕

一

二

三

四

一

二

一

一

一

一

一

一

七

一

三

一

三

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

二〇

二〇

うたーまし
うたまなび

歌磨

歌み霊

うた半む(終止形)

うたーむ (連体形) 歌

歌筵

歌室

宇
隆
山

歌よみ

うたむ

歌筵—せ—し

歌文字

歌物語

歌詠み

歌詠み心

歌聲

二六

一 二 一 七 一 一 一 四 八 一 二 三 三 五 二 六 一 二

101
101
101
103
103
10四
10五
10五
一〇六
一〇七
一〇八
一〇八
一〇八
一一〇
一一〇
一一〇
一一〇

うたーらしく

ウタリ

うたり

うだりーて

うたゝる

うだるーやうな

うたる部落

うたゝるゝべき

うたゝるる

うたゝるゝが

うたーるるーどとく

うたゝるゝなづと

うたじろるるも

うとしるるや

う
こ
し
ん

う
に
し
を

—

— — — — —

一一〇
一一〇
一一〇
一一一
一一一
一二三
一二三
一二七
一二七
二六八
二六八
二六八
二八〇
二八〇
二九〇

うたーれーけーむ
 うたーれーけり
 うたーれーける
 うたーれーこーし
 うたーれーざりーけん
 うたーれーざる
 うたれーし
 うたれーしーか
 うたーれーしーごとき
 うたーれーしーと
 うたーれーしーとーか
 うたーれーしーに
 うたーれーしにーし
 うたーれーしーは
 うたーれーしーを
 うたーれーず
 うたーれーた
 うたれーたき

一 五 一 一 二 一 一 一 一 一 四 二六 一 一 一 三 三 二

二七 二六 二六 二六 二六 二五 二五 二五 二五 二五 二四 二三 二三 二三 二三 二三 二〇

うたーれーたり
 うたーれーたりーけり
 うたーれーたりーけん
 うたーれーたる
 うたーれーたるーごとき
 うたーれーつ
 うたれーて
 うたーれーきーと
 うたーれーながら
 うたーれーぬ
 うたーれーぬる
 うたーれーはてーけり
 うたーれーむ
 うたーれーむ
 うたーれーもーはてーにーけり
 うたーれーゆく
 うたーれーよう

一 二 二 三 一 一 五 一 一 一 五 二五 一 一 一 二 一

二七 二七 二七 二七 二六 二六 二六 二五 二五 二五 二四 二三 二三 二三 二三 二〇

うた—れる	六	二九
うた—れ—る	二	二九
うた—れ—ゐて	一	二九
うた—れ—ゐる	二	四〇
うた—れ—をり	四	四〇
うた—れ—をる	一	四〇
うた—れ—をる—なり	一	四〇
うた—れ—ん	一	四一
歌右衛門	二	四一
うた—ん	五	四一
右端	一	四一
宇智	二	四一
打ち	六	四一
うち (内)	一七	四一
うち (自家)	一五	三七
うち (氏)	七	三八
うち (宇治)	五	三九

うち—あかし—たき	一	三四
うち—あかす—らむ	一	三四
うち—あがり	三	三四
うち—あがり—けり	二	三四
うち—あがり—つつ	一	三四
うち—あがり—ゐむ	一	三五
うち—あがる (終止形)	二	三五
うち—あがる (連体形)	三	三五
うち—あき—て	一	三六
うち—あきれ	一	三六
打ち—明く	一	三七
うち—あぐ	二	三七
うち—あくる	二	三七
うち—あぐる	三	三七
うちあぐる—ごとく	一	三〇
うちあげ	二	三〇
うちあげ—あひ	一	三〇

うちあひーて
 うちーあびーて
 うちあひーとよむ
 うちーあひーながら
 うちーあひーるーし
 うちあふ(終止形)
 うちあふ(連体形)
 うちーあふがーるる
 うちーあふがれーつ
 うちーあふぎ
 うちーあふぎーけり
 うちーあふぎーたり
 うちーあふぎーつ
 うちーあふぎーつつ
 うちーあふぎーみーし
 うちーあふぎーみれーば
 うちーあふぎーるーぬ

四 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

三四 三四 三四 三五 三五 三五 三六 三六 三七 三七 三八 三八 三八 三九 三九 四〇 四〇

うちーあふぎーをり
 うちーあふぎーをれーば
 うちあふぐ
 うちーあふぐーなり
 うちあふぐーべき
 うちーあふげ
 うちーあふーごとく
 うちーあぶす
 うちーあふーや
 うちーあふらーれーて
 うちーあへーば
 うちーあへーり
 うちーあへーる
 うちーあやまたーぬ
 うちーあらふ
 うちーあるる
 うちーあれし

一 一 四 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

四〇 四〇 四〇 四四 四四 四四 四四 四四 四四 四四 四五 四五 四五 四五 四六 四六 四六 四七

うちーあをみ
うちーあんじ
うちーいこはーむ
うちーいさむ
うちいだしーたる
うちいだす
うちーいためーぬ
うちーいで
うちーいでーくれーば
うちーいでーし
うちいでーず
うちーいでーて
うちいでーにーけり
うちいで
うちーいねーながら
うちーいのる

内祝

一	一	一	一	一	一九	一	一	一	一	一	四	一	一	一	一	一	一
三五二	三五二	三五二	三五二	三五二	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三八	三八	三八	三八	三八	三七	三七

うちいはひーせーむ	一	三五
うちーいひーて	一	三五
うちーいらちーつつ	一	三五
討入	一	三五
うちいりーし	一	三五
打入る	一	三五
うちいれ	一	三五
うちいれーし	一	三五
うちいれーて	一	三五
宇宙	三九	三五

合計四、三五首

よい歌だとうたつてみれば学校の歌声をすましてまた歌ひ出す（児童萬葉集）

大西待子

うたひーたのしむ【動詞・動詞】

萱むしろ芝生に敷きて花見つつ歌ひたのしむ身こそ安けれ①

與謝野 禮 厳

うたひーたまひーき【動詞・動詞・助動詞】

あなかしこ静かる嶋にも遠く来て若き帝みかどの歌ひたまひき⑫

與謝野 寛

一人のみ湯本勇之助従ひてさびしき山を歌ひ給ひき

土屋 文明

うたひーたまひーし【動詞・動詞・助動詞】

おきろなき大み心に「四方の海みな兄弟はらから」とうたひたまひし（黎明）

佐佐木 信 綱

「木に花咲き」とうたひたまひし先生の老いのなごみにわれならはむ⑤

岡 野 直七郎

うたひーたまひーぬ【動詞・動詞・助動詞】

萩の家は大きくひろしたはれ男の我れさへまじへ歌ひ給ひぬ⑨

與謝野 寛

うたひーたまへ【動詞・動詞】

うたひーたのしむ

うたひ―たまへ

與謝野様うたひ給へとばちとりて火影にゑみしひとの名しらず①

與謝野 晶子

うたひ―たまへ―り【動詞・動詞・助動詞】

君も臣もひとつ心のこの国と元田侍講もうたひたまへり①⑨

吉井 勇

うたひ―たまへる【動詞・動詞・助動詞】

天柱隆崇と歌ひたまへるみささは谷のまにまに此処にこもれり⑧

齋藤 茂吉

朗々と謡ひ給へる師の声にひかるごとく我は舞ふなり（多磨三）

小林 佐千子

うたひ―たら―む【動詞・助動詞・助動詞】

解雇されし友等酔ひつつ歌ひたらむ成徳寮寮祭を我行きて見ず①

葛原 繁

うたひ―たる【動詞・助動詞】

怠りてわれありし日にうたひたる友の歌集をつぎぎに読む④

竹尾 忠吉

大君に二心あらじとうたひたる実朝はわがなつかしの友①⑨

吉井 勇

大君に二心あらじとうたひたる実朝を思ふこのごろや切②⑤

吉井 勇

君が代をかく涙してうたひたることありしやとかしこみ思ふ⑥

櫻隠さういんが祇園のことをうたひたる詩もまた寒し梅雨のつづけば③⑩

三度まで死を決しぬとうたひたる東潮思へば涙くだるも①⑨

シベリアの浮囚生活をうたひたるシキシマノミチは紀元を劃すべし①

新庄ぶしあはれなるこゑに歌ひたるこよひのことをまた思ひ出む⑦

月の夜よ宿の娘と唱歌をうたひたるかの一夏のたのしかりしかな①

母がよく仕事なしつつ唄ひたるおかぐら歌を君は忘れず

人麿が筑紫の旅にうたひたる明石あかしの門とはも明日かわが見む②⑤

蒲団着て寝たる姿と歌ひたる東の山に母ねむりませ③

明つづき春告鳥とうたひたる置浄瑠璃の声もすずしき⑨

うたひ——つ【動詞・助動詞】

朝きよめわがする庭の木々に来てうたひつあそぶ親子の雀③

うたひ——たる

松田 常憲

吉井 勇

吉井 勇

三井 甲之

齋藤 茂吉

西村 陽吉

藤本 忍

吉井 勇

與謝野 寛

吉井 勇

相馬 御風